

平成 29 年度 第 2 回 松田町 地域公共交通会議 議事録

日 時 平成 30 年 2 月 8 日(木) 15:00~17:00

場 所 役場 4 階 4 A B 特別会議室

出席者 構成員：別紙「出席者名簿」のとおり(24 名出席・8 名欠席)

事務局：政策推進課

(吉田参事兼政策推進課長・出口主任主事・青山主任主事)

1 開会

【事務局】

会議に先立ち、本会の議事録・資料の公開を構成員に説明、了承される。

2 会長あいさつ

3 副町長あいさつ

4 報告事項

<資料 1：富士急湘南バスのダイヤ改正についての町民説明会結果概要>

【事務局】

- 1 月 12 日、13 日に湯の沢児童センター、寄中学校体育館、神山地域集会施設で実施した富士急湘南バスダイヤ改正についての説明会の実施報告

【委員（富士急湘南バス）】

今回のダイヤ改正につきまして、町内で 3 回の説明会を行わせていただき、減便については一定のご理解をいただきました。

また、いただいたご意見については、なるべく検討・考慮し当初の案から修正をさせていただいたところなので、何とぞ、今回のダイヤ改正について委員の皆様にもご理解をいただければ幸いです。

【会 長】 資料 1-1 に説明会に参加した方からの意見がすべて載っているので参照して意見をいただきたい。

【委 員】 意見の中にありました、バス時刻表の病院や町施設への掲示については、町としてもぜひ協力していきたい。
また、新松田駅のバスロータリーの 3 番線乗り場を降車専用にして乗降を 1,2 番線に集約する予定(資料 1-1.P 3)との話は、これは道路関係の話にな

るが、安全性の面からぜひ進めていただきたい。

【委員（富士急湘南バス）】

3番線を降車専用にするという話は昨年4月のダイヤ改正時にも出ていたが、なかなか話が進んでいなかった。

今回調べたところ、現状の便数であれば1,2番線だけでも十分乗降に対応出来ることが判明したので、今回のダイヤ改正の機会に進めていきたい。

【会長】 湯の沢の説明会で学童の保護者から出た話である。3番線で子供が待つのは危ないということだったので、この話が実現すれば、大変喜ぶと思う。

【委員】 夕方の新松田駅前の混雑について、駅前の商店街に駐車している車があり、自転車で通るときなども大変危険である。バスも通りにくそうである。送り迎えの車の待機を時間制限するなど待機自動車の減少に町として何かできないか。

また、新松田駅にバスを待つ場所がない、という意見があつたが自分もバスを逃して1時間くらい待つことがある。毎回喫茶店に入って休むわけにもいかない。昔は箱根登山バスの切符売場の近くに小さな待合所があつたと思うが……。町からもなにかバスを待つ場所についてアイデアはないか。

【委員】 待機自動車については、条例を作って制限するようなことはまだできていないが、町の取組みについては担当からお話しさせていただく。

【委員】 新松田駅前の駐車対策として、昨年より待機している車にポケットティッシュを配っている。ティッシュには「家を出る時間を5分遅らせてください」と書いてある。なぜなら、電車は早く着くことはない。また電車を降りてから車のところまで歩くのにも時間がかかる。

駐車している車の待機時間は大体5～10分くらいの方が多い。寒い時期など待たせるのがかわいそうということで早めに迎えに来ている方もいるが、電車で駅に向かっている人と連絡を取りながら、ぴったりの時間に迎えに来てもらえば、駐車時間は短くなる。

2日間で350台に配り、一時的な効果ではあるが、その週の待機車両は実際に減った。今年度も継続して実施していく予定である。

【委員】 条例で規制というよりは、まずはお願いという形で啓発活動を続けていく。

【委員】 バスロータリーはある意味公共的な場所であり、私用の場所ではない。駅前ではなく、もっと手前で待つこともできるはず。公共交通機関がスムーズに運行するための場所であるということをもっと啓蒙していくことが必要。
また、送り迎え用の場所を別に作るなどは、これからの検討課題であると思う。

【事務局】 駅のバスの待合所について、お話しさせていただく。
駅前の旧加藤化粧品店を新松田駅前の整備と絡めて、平成 29 年度に実証実験として簡単な待合室として使えるようにするところである。
桜まつりの期間中はお土産を売る場所として使っているのですが、それ以降は椅子とテーブルをおいて待合所として使えるようにする。トイレも設置したところである。
利用できる時間についてはまだ未定。なるべく早い時間から終バスの時間までが理想だが、実証実験中なので、17 時か 18 時くらいまでかと思う。
30 年度は交通事業者や近くの商工会のお店などと協議中なので、詳細が決まったら広報などでお知らせする。

【会長】 では、そのほかのご意見がないようなら報告事項は以上ということによろしいか。

【委員】 異議なし

5 協議事項

<資料 2：富士急湘南バス 新時刻表案(平成 30 年 2 月改定版)について>

【委員（富士急湘南バス）】

- 昨年 10 月の第 1 回地域公共交通会議で提示させていただいた新時刻表案から、会議や町民説明会でのご意見を考慮し、当初減便の予定だった平日の新松田駅発 13：50 の便を、14：05 に変更し、萱沼経由を取りやめたうえで減便は取りやめた。
また、寄発 14：45 の便も 14：40 に変更し、こちらも減便を取りやめた。
これは、小中学校の通学などに多大なる影響があるという声を受け、当初案より修正させていただいた。

【事務局】 説明会で、平日の 13 時台 14 時台のバスについて、小中学校の通学や部活などに必要であるというご意見をいただき、事務局より教育委員会にも確認した。その結果、やはり該当の時間のバスが通学に必要ということで、富士急湘南バスと協議し、減便を取りやめていただけることになったものである。

【会 長】 時間は若干変わったが、金曜以外の平日の本数が減らないことになったのは大変ありがたい。

【委 員】 富士急湘南バスには第1回の公共交通会議での意見もよく汲んでいただいて、本当にありがたい。
土休日について、正午近辺の減便が多いので観光客にはそこまで大きく影響はないのかなと思うが、土日のお客さんが多い場合はこれまで通り、増便で対応していただけるということでしょうか。

【委員（富士急湘南バス）】

土休日は観光客の需要がある。例えばロウバイ祭りの時期などは平日も多く観光客が来るので、状況に応じて増便している。同様にハイキングのお客様などが多い日などは増便を適宜していく。

【委 員】 4月から減便を実施することで、またその分乗客は減るのではないかと悪循環に陥り、来年もまた減便の話になるのではないかと。そういう方向ではいけないと思う。

自分の身近には、35年間もバスに乗ったことのない町民もいる。

全体としての規模がだんだん縮小していくのは仕方ないかもしれないが、例えば、バスの待ち時間が長いなら、楽しく待てる環境づくりをすとか、町民に割り当て制でバスに乗るようにしてもらおうなど、ただ乗客が増えてほしいということではなく、具体策を打っていかなければならない。

富士急湘南バスはとてもよくやってくださっているが、今のままではその頑張りに我々住民が応えられていないのでは。

【会 長】 確かに来年もまた減便という話が出るとやだなあという感じがする。以前公共交通についての講演会で聞いた話だが、年を取って車に乗れなくなる前にバスに乗るようにしなければいけない、という話があった。

乗る人を増やしていくことについては、本日はここでは議論しないが、工夫して乗客を増やしていくことで富士急湘南バスに持続可能な運行をしていただけるといい。

【委 員】 人々の移動手段がどういう形だと現実的で理想的であるのか、ダイヤ改正に限らず、アイデアを持っている人が話し合える場を町がイニシアティブをとってつくるべきではないか。

町民説明会も参加者が多くなかった。バスを利用している人でも説明会に来

ていない。これは、路線の減便で生活が困るという実感がないのではないか。バスを利用しないと困ることになるよ、という追い込み方をしなければ、バスを使ってくださいというお願いだけでは乗客は増えないと思う。また、民間事業者に頼るだけではなく、フレキシブルに少人数に対応できる交通手段を検討していく必要があるのではないか。

【会 長】 そうなるとかなり大きな話になる。将来的に公共交通会議でそういったことをどう話し合っていくか町でも考えてもらいたい。

【委 員】 高齢者の自動車免許の返納について、もし免許を返納したら、今度はバスを利用することになる。バスの便が減っていくと住みにくい町になってしまう、という意見も町民説明会で出ていた。これは遠い話ではなく、身近な話である。

【委 員】 免許返納者への、乗車賃の割引などの特典はあるのか。

【事務局】 特に返納者への特典はないが、町では65歳以上を対象にまちなりパスという通常の3分の1の負担で町内乗降自由のバス定期が購入できる事業を行っている。現状は65歳以上の方への補助として「まちなりパス」をお使いいただきたい。

【会 長】 それでは富士急湘南バスにもかなりご努力頂いたところであり、今回のダイヤ改正については委員の皆さまの共通理解を得られたということによろしいか。

【委 員】 異議なし

6 その他

【事務局】 ダイヤ改正以外にご意見などあればお伺いしたい。

【委 員】 今回町民説明会で実施した減便にかかるアンケートについて、正確な分母を把握はしていないが、アンケートが21人、参加者が35人という結果。費用や時間の問題もあると思うが、今後もまたダイヤ改正はあると思うので、どこかの段階でバスを利用している住民の利用実態、今後の要望などの調査をまとめて実施することを検討していただきたい。

【委員】 新松田駅の南口にロータリーを作ってバスの発着を南口で行うという話があったと思うが、その後どうなったのか。

【委員】 新松田駅の南口で、小田原方面のバスを発着させたいという計画はまだ続いている。小田原方面の踏みきりを渡る必要のあるバスが、渋滞のもとになっているので、南口で発着させることで少しでも渋滞が解消されるのではないかと考えている。

現在、南口の整備が遅れており、富士急湘南バスとの協議は始まっていないが、北口の整備と合わせてまちづくり課で構想を進めている。

【委員（富士急湘南バス）】

南口の件は、まだ具体的な話はいただいているが、南口でバスの発着が可能になれば、時間短縮にもなり、特に朝の通勤時間帯などは大変助かる。関係各所との調整ができれば、ぜひ進めていただきたい。

【会長】 それでは、その他特にならなければ、最後に、国土交通省関東運輸局と神奈川県県土整備局都市部交通企画課より委員として参画いただいているのでの方がいらっしゃるの一言ずつお願いしたい。

【委員】 利用者を増やすためのイベントなど、単独ではなかなか難しい。町、事業者、町民の皆さんで連携して検討していただきたい。

【委員】 乗ることも大事だが、みんなに愛着を持ってもらえる公共交通について皆さんで考えていただきたい。

【会長】 愛着を持てる公共交通というのはキーワードである。よく考えていきたい。

【事務局】 現在町でも、バスの利用を呼び掛ける取組みや、通学定期や高齢者定期補助事業を行っております。今後とも皆様には公共交通へのご理解ご協力を何とぞお願いしたい。

7 閉会

【副会長】 副会長あいさつ